

平成24年度 新潟市北区文化会館 事業報告書

事業	実施日	会場	対象	入場者数	内容
<鑑賞事業> N響メンバーによる 弦楽四重奏	4月22日 (日曜)	北 区 文 化 会 館	全席指定 一般2,000円 高校生以下 1,000円	476人	チケット発売日の販売枚数141枚。購入者は近隣の住民、N響への期待からか関心度は高い。チケット代について、会館は3,000円～3,500円を提案したが、NHKの担当者から”高いのではないかと”の指摘もあり、2,000円とした。この低料金が販売促進の理由の一つにあげられる。友の会恒例の交流会を企画したが、会員全員に参加の確認を行った結果、希望者が1～2名だったため、記念写真となった。北フィルメンバーにも声をかけ、撮影に参加してもらった。
<鑑賞事業> 狂言のおしえ 良寛のこころ	7月15日 (日曜)		全席指定 一般3,500円 高学生以下 1,000円	150人	狂言、箏の弾き歌いは共に歴史は長い。表現方法も決った型や約束事から成り立っている。だからこそ表現者が歴史に埋没されたままでは新作は生まれてこない。山本東次郎師と国立劇場の演出家田村氏はかつて宮沢賢治の童話を現代風にアレンジをしている。そして平成24年、北区文化会館のために良寛の長歌を語りと箏の弾き歌いという全く新しい作品を生み出してくれた。又、東次郎師の熱意と研究心によって品格ある新たな舞台表現の作品となった。出演予定だった鈴木真為氏が命に関わる急病の為降板。田村氏の推薦で急遽、草間路代氏が出演してくれることになった。山本家の若手も加わった狂言2番も見ごたえのあるものであった。
<ワークショップ> ミュージカルへようこそ	8月4日 (土曜) 5日 (日曜)		無料	79人	参加者は、山口氏の軽快な話し言葉や巧みな指導で、すっかりミュージカルスターになったつもりで2日間のワークショップを楽しんだ。1日目、山口氏の演奏するキーボードに合わせて、ミュージカルの代表的ナンバーを練習。最初は「春のホタル」に出演するといっても歌やダンスなど全く経験の無い参加者にとっては、ロバクでも追いついていけず、苦戦を強いられている様子。ダンスは年齢の早見表の代弁者。年齢が上がるにつれて足がもつれている。しかし、こんな様子も終わり頃には、何とか形になってきた。2日目、参加者は皆、明るくのびのびと振舞っている。2日間限りのワークショップではあるが、この体験は11月公演に良い影響を与えたに違いない。
<鑑賞事業> 第2回北区ジャズ祭り	8月25日 (土曜) 26日 (日曜)		一般 練習室1 1,000円 ホール 3,000円	589人	H23年度との違いは①公演日程を3日間から2日間とする。②センターコモンは使用しない。この2点がある。理由は①現力量としては2日間くらいが妥当であること。②センターコモンは足場が悪い上に暑さ対策が取れないことである。本年の出演バンド数は17組、山形と仙台のBigBand2組が出演してくれた。この2組は歴史も長く演奏技術も高いと評判のバンドだ。3.11の被災地からの初出演。ロビーの「茶柱」に来年の出演があれば照明を仕込むことにする。今岡・森山チームはジャズ界では有名でも、一般的には知名度はゼロ。観客動員に繋がらなかった。
<鑑賞事業> AKIRA FUSE Way of the Maestro Tour 2012-2013	9月22日 (土曜)		全席指定 一般 前売り 5,000円 当日 5,500円	544人	抜群の歌唱力とバックバンドの優秀さが評判の布施氏のコンサート。若い頃と変わらないその声量の豊かさに多くの観客は圧倒された。「今、クラシックを勉強している」と布施氏が本公演の目玉として歌われたのはオペラ・アリア。演奏なしで5分の独唱に客席は水をうったような静けさから一転、感動のどよめきに包まれた。終演後、沢山のお客様から「すごく良かった。今後もこんな事業を開催して欲しい」との要望があった。全国的に多くの支持者が居られる布施氏らしく、チケットの販売先は東京、川崎市など広範囲に広がっていた。
<鑑賞事業> 欺瞞と戯言-ぎまんとたわごと-	10月7日 (日曜)		全席指定 一般 前売り 4,000円 当日 4,300円	240人	今、演劇界で注目され、数々の演劇賞を受賞されている中津留章仁氏の新作。中津留氏の作風はお茶の間で気楽に見るような作品ではない為、反応はいかがと心配もあったが客席からは笑いが起こるなど心配は杞憂に終わった。竹下氏の2度目の来館であったが、共演者がすこし地味だったせいもあるか、入場者数があまり伸びなかった。上越文化会館と共同で招聘し、交通費などの経費削減に取り組んだ。また、終演後の友の会員との交流会には出演者全員に出席してもらうことができ、その様子は新聞に掲載された。

事業	実施日	会場	対象	入場者数	内容
<鑑賞事業> ソプラノ五十嵐尚子&ピアノ小杉真二 ジョイントコンサート	10月28日 (日曜)	北 区 文 化 会 館	全席自由 一般 前売り2,000円 当日2,300円 中学生以下 前売り1,000円 当日1,300円	461人	五十嵐氏、小杉氏は共に新潟県出身者であり、県内のみならず東京や他の地域でも活躍しているアーティストである。この事業の提案者はお二人を良く知るピアノの調律師。二人のジョイントを当ホールで行いたいとの申し入れがあり承諾、初めての提携公演となった。五十嵐氏は北区の音楽文化に多大な貢献をしているソプラニスト。小杉氏は若くこれからの活躍が囑望されているピアニスト。初めてのジョイントコンサートとのこと、今後もこのような企画には会館として積極的に支援していこうと考える。
<鑑賞事業> いっこく堂&マギー 司郎 ふぁみりいde お笑いショウ	12月15日 (土曜)		全席指定 一般4,000円 中学生以下 1,000円	548人	類まれな才能といっても過言ではないいっこく堂氏の前評判は高く、チケットの売れ行きは良く友の会会員と、発売日当日でほぼ半数の客席がうまった。新潟駅にマギー司郎氏を迎えに出たが万代口に居るとの事。話を聞くと、地方公演に出る時には、必ず前日入りすることになっていると言う。移動中に何が起こるかわからないからとの理由。お客様や主催者に迷惑がかからないようにするのが演者の勤めだからと。このような気配りはなかなか出来ないことだ。また、公演中のいっこく堂氏の客席を縦横無尽に歩き回ってのサービスは観客にとっても大満足の時間となった。
<鑑賞事業> 北区子どもステージ 劇団プーク「ね ぎぼうずのあさた ろう」「ピーターと おかみ」	平成25年 2月24日 (日曜)		全席指定 一般1,500円 3歳以上 1,000円 親子ペア 2,200円	538人	チケット発売日の反応があまり芳しくなかった為苦戦を予想したが、後半、思った以上の伸びをみせ結果的には満席となった。公演当日も雪と風の悪天候だったが、当日券を求める親子でロビーは賑わいを見せた。「ピーター〜」は楽器がセリフを表現。幼児には難しいのではないかと危惧したが、子供たちの集中度は高く、私語や泣き声も無いまま本作品は終了した。「ねぎぼうず」は音楽も人形の動きも軽快で、観客席は大いに盛り上がった。劇団プークの知名度は低かったが、被り物ではない本物の人形劇が、保育園や幼稚園間で話題となり観客動員が可能となった。
<鑑賞事業> 第3回新春北部落 語まつり	平成25年 3月10日 (日曜)		全席指定 一般 前売り3,500円 当日3,800円 中学生以下 前売り2,000円 当日2,300円	552人	今回出演の4人は、既に解散したがSWAという新作落語の会で圧倒的人気を博した落語家さん達。「新潟でSWAを知っている人は少ないよ」と言われていたが、少しずつ浸透していき、前年度ほどの速さではなかったが、3月を待たずにチケットは完売した。会の終了後は、恒例の友の会会員との記念撮影。写真撮影や交流会に参加する会員も限定されてきているが、このような特典を特典として感じてもらう為に更なる工夫が必要かもしれない。
<創造事業> 北区オリジナル ミュージカル「春の ホテル」	11月24日 (土曜) 25日 (日曜)		全席自由 一般 1,000円 中学生以下 500円	1,465人	開館記念事業として、企画された北区オリジナルミュージカル。平成22年に原案を募集。翌23年作曲、台本の制作開始。タイトルを「春のホテル」と決定する。24年5月にオーディション。幅広い年齢の男女が応募してくれたものの、肝心の子役が集まらず台本の変更も考えたが、出演者の援助で何とか台本に必要な子供たちが揃った。稽古日数32日と舞台稽古3日間の日程となったが、殆んどの出演者が脱落することなく本番を迎えることが出来た。歌とダンスの各指導者の、殆んどの出演者が脱落することなく本番を迎えることが出来た。歌とダンスの各指導者の厳しい稽古にも耐えてくれ、観客からは高い評価をもらい、公演は大成功だったといえよう。
<会館利用推進事業> 私もピアニスト	7月11日 (水曜) から 平成25年 3月19日 (火曜) 計9日間		公共の施設 を借り、ピ アノ演奏を されている 方、ピ アノ教室関 係者 無料	157人	プロの演奏家と同じ舞台にたち、参加者がプロのピアニストになったような気持ちで演奏体験をしてもらいました。開催中に利用者からの要望で、他の楽器との合奏や、合唱としての利用などもあったが、本事業の主旨はピアノ演奏を楽しんでもらうところにあるため、以降は合奏、合唱での利用は止めてもらいました。申請時と利用前に舞台のマナーを参加者に伝えることで、舞台上をより特別な場所として意識してもらえよう配慮しました。北区以外(聖籠町、田上町など)からの申込者もあり、北区文化会館のホールの魅力を区外の方にも体験してもらいました。

事業	実施日	会場	対象	入場者数	内容
＜普及・育成事業＞ アウトリーチ 「邦楽」	5月24日 (木曜)	松浜小 学校	松浜小学校 児童、先生、 保護者 参加費100円	111人	11時、講師二人が到着。昼食後、本日のアウトリーチ会場の松浜小学校へ。6年生107人がプレイルームに集合。保護者5名、北区役所地域課野口係長、角田氏が傾聴。「尺八を見たことのある人」と坂田氏の問いに数本の手が上がる。1曲目は世界的にも有名な「春の海」が演奏された。続いて木村氏と坂田氏がそれぞれのソロ演奏。プレイルームには箏六面、尺八40本が用意され、演奏体験が始まった。児童たちは初めて触れる尺八に興味津々。スーとの音も出ない。坂田氏が一人一人に指導を繰り返す。“出た！”歓声と拍手！殆どどの児童がなぜか箏の前では神妙な顔に。弾くたびに仲間と肩を叩き合うなど体験の楽しさが伝わってきた。
	5月25日 (金曜)	松浜保 育園	松浜保育園 児、龍源寺 の檀家 参加費100円	80人	客席を3歳から5歳までの園児を囲むような配置にし、園児と龍源寺の檀家たちが古典音楽を楽しんだ。前半の30分は「げんこつ山のためきさん」のじゃんけん大会や、「幸せなら手をたたこう」など、演奏にあわせて大きな声で歌うなど園児が主役の時間。3歳児の退場後は大人向けの時間。もう少し居たいと希望した5歳児はじっと耳を傾けている。坂田氏の「どう、難しかった？」との問いに「うん、楽しかった」と可愛らしい声で返事。おもわぬ答えに坂田氏は感動した様子。「隣のトトロ」の演奏が始まると園児、檀家ともに盛り上がり、余韻覚めやらぬ雰囲気の中で終演となった。
		こらぼ 家	松浜地域住 民 参加費100円	52人	松浜保育園から車で3分、松浜地域の人々が憩う無料休憩所の「こらぼ家」が会場。私達が着いた時にも、年配のご婦人達が会合を行っており、帰るところか椅子の並べ替えをも手伝ってくれるなど和気藹々の雰囲気が満載。担当者の方は、宣伝が遅れたので、何人来るか分からないと若干弱気だったが、演奏中にもどんどん人が入って、最後には畳の部屋とたたきの部屋は満員となった。50センチと離れていない近さでの演奏に、参加者は感動した様子。土間に並べられた箏と尺八もおしゃべりや笑いの中での体験コーナーとなった。
＜普及・育成事業＞ アウトリーチ 「狂言」	6月28日 (木曜)	濁川中 学校	濁川中学校 生徒、先生、 保護者 参加費100円	210人	「柿山伏」は親しみやすく、子供たちにも共感を得る狂言である。演技エリアとワークショップのエリアを分けて準備。演技をワークショップを延長線上に置かない山本家のこだわりである。体育館ステージの使用を打合せ済みだったが、出演者と共に片づけをしなくてはならなかったのは残念なことである。最初に『柿山伏』を上演。両山本氏が着替えをしている間に若松氏が要領よく能楽の歴史や柿山伏の解説を行った。若松氏の話はとても分かりやすく、生徒達が興味を持つ内容であった。山本則秀氏のリーダーシップで能楽の基本動作を参加者全員が順番に行ったが、「難しいー」と叫びながらも楽しそうな子供たちの顔が印象的であった。
	6月29日 (金曜)	葛塚中 学校	葛塚中学校 生徒、先生、 保護者 参加費100円	331人	体育館ステージ上で通常は柔道の練習場を演技エリアとした。受身用のマットレスは外すことになっていたが、開演ぎりぎりまで準備がなされず我々が行うことに。実際にはがし始めると床に協力的な粘着テープが残り使用不可。ふかふかの足元だったが、出演者の許可を得て変更無しで決行。下見を行った時にこの事を発見できず、前日に続き出演者に迷惑をかけてしまったことは痛恨のきわみである。このような悪条件で『柿山伏』が上演された。その後の基本動作の体験では、生徒に混じって先生も参加。日頃人気物であろう先生の体験では大きな拍手と笑いが起きていた。
		木崎コ ミュニ ティセ ンター	木崎コミュ ニティセ ンター付 近の住民 参加費100円	76人	今回のアウトリーチは7月公演との関連事業として役割も大きく、会場でのチケット販売は大いに期待されたが残念ながら成果を得ることは出来なかった。出演者による直接的な呼びかけは本来、大きな成果となって現れるものだがジャンルによっては答えがでないこともあるようだ。木崎コミュニティは昨年も本事業(能楽)が行われており、他の地域よりアウトリーチに対する理解も高い。しかしながら会館の事業への理解がそのままとはいえない。

事業	実施日	会場	対象	入場者数	内容
＜普及・育成事業＞ アウトリーチ 「ドラムサークル」	9月27日 (木曜)	豊栄児童センター	北区東栄町 地区住民 参加費100円	48人	参加者は主に幼児とその保護者。小さい子供を相手にドラムサークル特有の合図を覚えてもらうことが難しいように感じられたが、徐々にリズムの流れにのれるようになった。初めて触れる色々な打楽器は子供だけでなく一緒に参加した大人も楽しく演奏した。最初は恥ずかしがっていて「叩かなくていい」と言っていた人が最後には楽しそうの演奏していた姿が印象的だった。
	9月28日 (金曜)	南浜小学校	南浜小学校生徒、先生 参加費100円	120人	学校にある打楽器の数がとても多く、1回のドラムサークルに参加する人数、体験時間を多くとることができた。山下氏の合図でリズムに流れができ、一つになっていく。とても迫力のある素晴らしいドラムサークルだった。参加学年が上がるにつれ、より高度なリズムパターンに挑戦していった。
	9月28日 (金曜)	南浜中学校	南浜中学校生徒、先生 参加費100円	132人	今事業では、一番年齢の高い参加者で、よりレベルの高いドラムサークルを期待して臨んだ。はじめ、山下氏は太鼓を使わない手拍子だけのリズムで、合図の確認、ドラムサークルの流れを教える。この最初の行程を前2回に比べ、とても丁寧に時間をかけていたことが印象的だった。各学年ごと3グループに分かれ、1年生より順次行っていったが、1年生が一番元氣よく楽しそうに太鼓を叩いていた。山下氏は、低音を担当する楽器(大太鼓など)の生徒を中心にリズムの流れをつくっていった。叩く人、先導する人のコミュニケーションのとれた良いドラムサークルであった。
＜交流・発信事業＞ 北区フィルハーモニー管弦楽団 第1回定期演奏会	6月10日 (日曜)	北区文化館	全席自由 一般 1,000円 高校生以下 500円	525人	昨年11月に行われたファミリーコンサートとは対極をなす演奏会としてクラシック中心の選曲と鑑賞者も大人だけにしたいとの要望が北フィルから提出された。しかし、まだ結成から間もないことや地域での知名度をあげるためにも、子供料金を設定することにした。大人1,000円、子供500円とファミリーコンサートと同じ料金とした。演奏曲はクラシックのみ。15名の中学生以下の子供たちの入場はあったが、全体的には大人の演奏会の雰囲気だった。北フィルとは本事業の位置づけや運営の仕方などを協議が行われるなど前向きな演奏会となった。
＜交流・発信事業＞ 北区音楽祭 2012	11月4日 (日曜)		北区民 無料	1,521人	参加団体: 30、観客と団体をあわせての入場者数1,521人。キッズダンス、パレー団と音楽に関係する団体や個人を含む幅広い区民が参加する北区音楽祭。年々参加者が増え、持ち時間も10分と短くはなっているものの、区民が楽しみに参加してくれるのは、本事業が北区において定着し、大きなイベントとなっていることの証である。参加者の協力も運営に大きく寄与している。実行委員会、公民館との協力体制を今後も強化し、区民が目標としている音楽祭をより充実させていくことを目標とする。
＜交流・発信事業＞ 長川慶～テノールの世界～	平成25年 2月9日 (土曜)		全席指定 一般2,000円 中学生以下 1,000円	359人	本事業をきっかけに、長川氏とは出演者、主催者、観客という関係以外により強い関わりを持つことになった。1月に結成された「少年少女合唱団」と、12月に行われる「合唱と弦楽アンサンブルの夕べ」(仮題)の指導者として活躍してもらう。出演者に会館の事業の指導者になってもらうことはあまり例がないかもしれないが、交流・発信事業の副産物として、事例を増やしていきたいものである。